

料金別納郵便



五代
高橋楽斎
高橋美子
田尾 晃 信楽三人展
— 四代 楽斎の遺志を継ぐ —

令和7年11月2日(日)～7日(金) 会期中無休

開廊時間：午前11時～午後7時（最終日7日は午後5時まで）

作家在廊日：高橋楽斎／11月2日(日)～4日(火)

田尾 晃／11月5日(水)～7日(金)

令和元年、五代 楽斎はアメリカのデンバー美術館で講演を行った。その時、俳人の加藤楸邨の「月下信楽」という文章を引用して、冴えかえる月明りを浴びた信楽の大壺の「何にも凭れず、何にも媚びず、それ自身で極めて自然に据わっているという在り方」が自身の作品の理想であると語った。そして、生まれたのが《ウズクマル》である。ずっと立ち上がった壺型の蹲で、肩から胴下部にかけて激しい焦げやくつつきが見られる。また肩には桧垣文が施され、二筋の玉垂れが美しい景色を表わしている。《茶碗》は側面の篋削りが特徴的で、なんとも気持ちがいい。

次女 美子の《茶碗》は灰被りと焦げが見られ、ふっくらとして温かい。《しのぎ花入》は上品な女性を眺めるようで、肩から裾にかけての美しい曲線が魅力的である。

田尾晃の《Orbit Vase》は角柱の集合体に 2 本の曲線が粗み合わせり独特な空気感を醸し出している。《茶碗》は多面体で構成されており、二人とは対照的な思考する茶碗である。

森 孝一（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）

柿屋ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル B2 階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com







茶碗 W13.6×D13.0×H9.6 cm



茶碗 φ11.5×H8.5 cm



茶碗 φ11.7×H7.8 cm

田尾 晃

Tao Akira

平成3年 長崎県長崎市生まれ
平成22~26年 The New York State College of Ceramics
at the Alfred University, Art&Design 学部卒業
平成26~27年 同大学にてAssistant Technicianとして勤務
平成28~29年 滋賀県陶芸の森にて
スタジオアーティストとして1年間滞在
平成29年~令和5年 滋賀県陶芸の森
創作研修課技術スタッフとして勤務

五代 高橋楽斎

Takahashi Rakusai

昭和29年 滋賀県甲賀市信楽町生まれ
昭和50年 滋賀県立信楽窯業試験場 卒業
昭和52年 荒川豊蔵先生のもとに互窯会結成
平成4年 柿傳ギャラリーにて個展 (9回)
以降、日本橋三越本店、福岡三越、大阪高島屋、J R名古屋高島屋、
京都高島屋、山口井筒屋にて個展
平成22年 五代 高橋楽斎 襲名
令和3年 高橋楽斎 高橋美子 田尾晃 三人展 (柿傳ギャラリー)

高橋美子

Takahashi Yoshiko

昭和63年 滋賀県甲賀市信楽町生まれ
平成21年 関西外国語大学 短期大学部
国際コミュニケーション学科 卒業
平成24年 京都府立陶工技術専門学校 修了
平成25年 滋賀県立信楽窯業技術試験場 修了
平成28年~令和元年 滋賀県陶芸の森
創作研修課技術スタッフとして勤務
令和5年 University of Michigan Museum of Artでの
展覧会出品、講演会



Orbit Vase W24.8×D19.6×H32.3 cm



ウズクマル φ18.0×H22.0 cm



しのぎ花入 φ13.0×H25.5 cm